

研修報告 E班1グループ 養殖うなぎ8切れ

【発表テーマ】

「大学と積極的に関わる学生を育成するための一提案」

【テーマ設定までの流れ】

私たちのグループでは、ブレインストーミングにより大学の役割や現状など、それぞれの考えを列挙していくことから始めた。そしてそのなかで行われた議論から、今回の発表テーマを設定しようと考えた。

<そもそも大学の役割とは何か>

将来を担う人材を養成すること。地域教育における先導的な役割や産学連携により地域社会へ貢献すること。研究内容を社会に還元し、学術的・文化的貢献を果たすこと。などが挙げられた。

<そのために、大学は何をするべきか>

次に私たちは「大学の役割」を果たすために大学は何をしなければならないのかということ議論した。私たちの中から挙げたものは、自ら進んで学びたくなるような環境を提供する。社会に求められている能力を学生に身に付けさせる。大学の授業を地域の方々に公開する。社会や地域に開かれた大学を目指す。といったことである。

<現状はどうか>

では、実際に大学の現状はどうなっているだろうか。授業外の学習時間が減少し、積極的に学問を深める学生が減っている。目的意識のない消極的な学生が増えている。学生が求めているものを大学が把握し、提供できていない。などの意見が挙げられた。

<どのような取り組みが必要か>

これらの現状を踏まえ、大学の役割を果たすために我々はどのような取り組みを行っていく必要があるのだろうか。目的意識を持った積極的な学生の養成。学生のニーズを活かした大学運営。教職協働による学生支援・指導。などが挙げられた。



【テーマ設定】「大学と関わる学生を育成するための一提案」

上記のブレインストーミング及びそれに伴う議論から、私たちは自ら考え行動することのできる「積極的な学生」を育成することが重要であると考えた。しかし「積極的」という言葉はあいまいで広範であるため、「積極的に大学と関わる学生」という意味の積極性に焦点を当て、議論を進めていくことにした。その理由としては、社会が求めている「積極性」とは、自らの所属する組織(企業や団体)に対して積極的に関わり、問題発見や改善活動などを自発的に行うことによって社会に貢献することではないかと考えたからである。そのため、学生時代から自分の所属する組織である大学に積極的に関わる学生を育成することを目的とし、今回の発表テーマを設定した。

【具体的な方策】

では、「大学に積極的に関わる学生」を育成するためには具体的にどのような方策が必要なのだろうか。私たちは「外発的に積極性を身につけさせる」方法と「内発的に積極性を身につけさせる」方法に分けて考えた。

外発的に積極性を身につけさせるには、学生が積極的にならざるを得ない環境を作り出すことが必要だと考えた。出てきた案としては、アクティブラーニング、オリエンテーションキャンプ、留学の必修化など自ら考え自発的に発言や行動をすることが求められるものである。

一方、内発的に学生の積極性を身につけさせる方法として挙げたのは、学生同士のサポート（ピアサポート）、長所を伸ばす履修計画、おすすめ履修計画の提示、サークルやボランティア等課外活動への参加、webカメラによる面談 等である。

また、学生自身が積極的になったかどうかを判断する手段として学生評価システムの導入が必要ではないかと考えた。

これら挙げた方策の中から、発表では①学生評価システムの導入、②アクティブラーニングの導入、③学生同士のサポート、④アフィリエイト履修システムの導入 という4つの提案を行った。各項目の具体的な内容については発表資料の通りだが、グループ内で議論が活発に行われたのはアフィリエイト履修システムと学生評価システムについてである。

入学前に適性テストを行い、学生個々の適性に合った履修モデルを提示することによって学生の長所を伸ばしていく。そして学生が科目選択の際に一つの判断材料となるような関連科目や展開科目を紹介することによって、学生自らが目的をもって大学での学びを進めることができると考えた。さらに、学生の自己評価・教員やカウンセラーからの評価を定期的に行うことで、学生が積極的に活動できているか否かを評価することができる。これらの方策を進めることによって、学生の自主性を養っていくことができるのではないだろうか。そのような議論のもと最終日の発表に至った次第である。

【考察】

今回の講習会を受講し、大学の役割とは何か、そのために大学職員は何をしていくべきかといったことを考える良い機会になった。また、キャリアが異なるグループメンバーや他の参加者と意見交換することができ、有意義なものであった。社会に求められる大学の役割は大きく、その求められる役割を果たすために大学職員としてやるべきことの多さも改めて認識した。今回の研修における出会いや繋がりを大切に、今後も大学間の交流を続けていきたいと感じた。